

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和5年11月20日（月）

### 2 確認箇所

監視制御装置（免震重要棟集中監視室）、測定・確認用設備、置換ろ過水供給タンク（K4タンクエリア）、処理水移送ポンプ（多核種移送設備建屋）

### 3 確認項目

多核種除去設備等処理水希釈放出（「ろ過水置換」工程）の状況

### 4 確認結果の概要

第3回目の多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の放出（測定・確認用タンクA群からの放出）は、11月2日に開始され、11月19日にALPS処理水の移送が終了し、本日（11月20日）は、ALPS処理水移送ラインの残水（ALPS処理水）をろ過水で押し流す「ろ過水置換」工程が行われたことから、免震重要棟集中監視室での監視制御装置の操作状況及びK4タンクエリア、多核種移送設備建屋における移送設備等の確認作業等の状況を確認した。

（図1）（写真1）（前回確認日：令和5年10月23日）

- ・「ろ過水置換」工程の操作は9時55分に開始され、トラブル等の発生はなく、12時01分に終了し、ALPS処理水の第3回目の放出が完了した。なお、今回の総放出量（ろ過水量：25 m<sup>3</sup>を含む）は、7,753 m<sup>3</sup>であった。（初回B群：7,788 m<sup>3</sup> 2回目C群：7,810 m<sup>3</sup>）
- ・東京電力では、今後、上流水槽の水を下流水槽に排水した後に、上流水槽内部の防水塗装の状態を経過観察するなど、設備及び運用に係る点検等を実施するとともに、これまでの3回のALPS処理水放出を通じた総括を行うとしている。

#### <免震重要棟集中監視室における操作状況>

- ・操作指揮者の指示のもと、操作手順書に従い二人一組の操作員が、復唱及び指差呼称による確認をしながら監視制御装置の操作を進めていた。
- ・系統のライン構成及び現場における弁や処理水移送ポンプ等の確認終了後に、当直長管理の「移送許可キー」を使用して「ろ過水置換」が開始され、ろ過水移送量が25 m<sup>3</sup>に達したところで処理水移送ポンプが停止して、「ろ過水置換」が終了した。

＜現地確認作業の状況等＞

- ・東京電力の担当者が二人一組で、ラインの構成を示す書面に従い、ろ過水を貯留しているタンク（置換用ろ過水供給タンク）及び弁の開閉状況等の確認を行うとともに、処理水移送ポンプが起動前後において異常がないことを確認していた。（写真2）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1）  
K4タンクエリアの概観  
（南西側から撮影）



（写真2-1）  
処理水移送ポンプ（A）入口元弁  
「全開」の確認状況



(写真 2 - 2)  
処理水移送ポンプ (A) 起動後の確認状況

- 5 プラント関連パラメータ確認  
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。